

地域自主戦略交付金事業 林道ホラ谷立里線

野迫川村（建設課）

1. 再評価対象事業一覧表
2. 事業評価項目一覧表
3. 説明資料

事業評価項目一覧表

事業名	地域自主戦略交付金	事業主体	野迫川村
河川・道路名等	ホラ谷立里線	事業箇所	野迫川村北股
評価項目及び評価内容			
事業の目的及び必要性 <input type="checkbox"/> 目的 森林施業の推進、林業生産性の向上及び保育作業の労働条件緩和を図る。 <input type="checkbox"/> 必要性 長期にわたり、森林の整備を行う必要があるため。			
事業策定の経緯 <input type="checkbox"/> 当時の状況 利用区域内の路網が未整備のため、森林施業が遅れている。 作業員は保育等の森林整備に徒歩通勤を余儀なくされ、作業効率が悪く、大きな負担となっていた。 <input type="checkbox"/> 着手までの経緯 森林整備、木材搬出のため、平成14年度より着手。 地元住民及び森林所有者の強い要望があった。			
事業の効果(費用対効果や施策的な効果など) <input type="checkbox"/> 計画時の効果 森林整備の推進と山林への通勤時間の短縮と安全を図る。 <input type="checkbox"/> 現時点の効果 (費用対効果: 1.08) 森林の保育作業が推進され、計画も立案されている。			
事業の進捗状況(着手時からの社会経済情勢の変化、事業の問題点、克服度など) <input type="checkbox"/> 進捗状況 平成23年度末の進捗率は31.4% (完成2,576m / 計画8,200m) <input type="checkbox"/> 執行の遅延及び原因 村の財政状況が厳しく、必要な事業費が確保できなかった。また紀伊半島大水害を始めとする大雨によって既設路線が被災し、工事期間が十分に確保できなかった。			
事業進捗の見込み <input type="checkbox"/> 進捗の対策 先線の尾根部については開設単価の縮減や施工効率の向上が見込める。 <input type="checkbox"/> 進捗の見込み 尾根部にあたる4,424mは、単年度での開設延長は既設路線部分と比べ、進捗の伸びが期待できることから平成33年度の全線開通としたい。			
事業の対策 平成33年度の全線開通を目標に早期の事業完了を目指す。			
その他 <input type="checkbox"/> 関係機関等の意向 地元住民、森林組合より早期完成の要望がある。 <input type="checkbox"/> 関連事業の有無 無し			

林道ホラ谷立里線

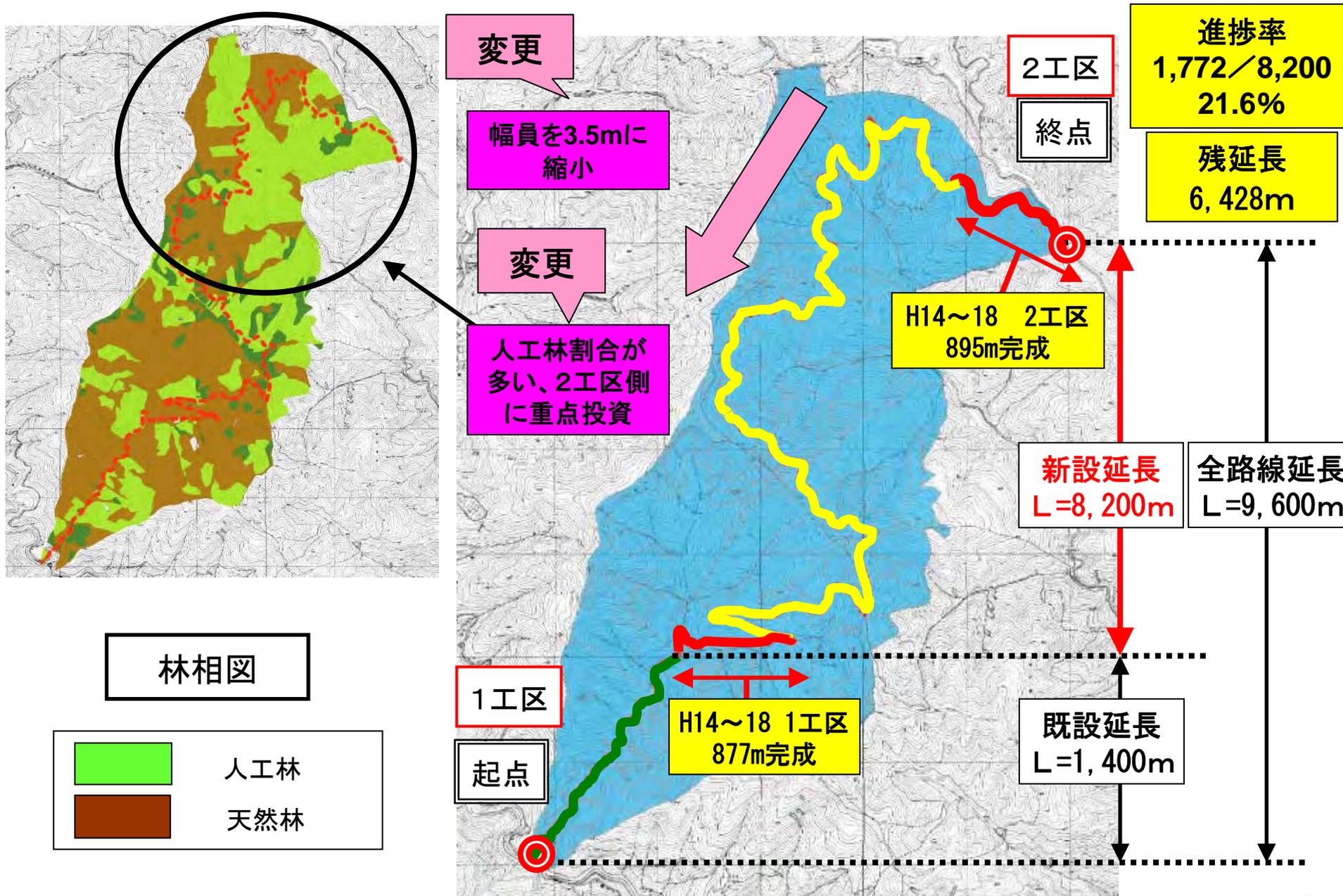


1. 路線の現況
2. 事業効果
3. 今後の方針

1. 路線の現況

(1) 全体計画

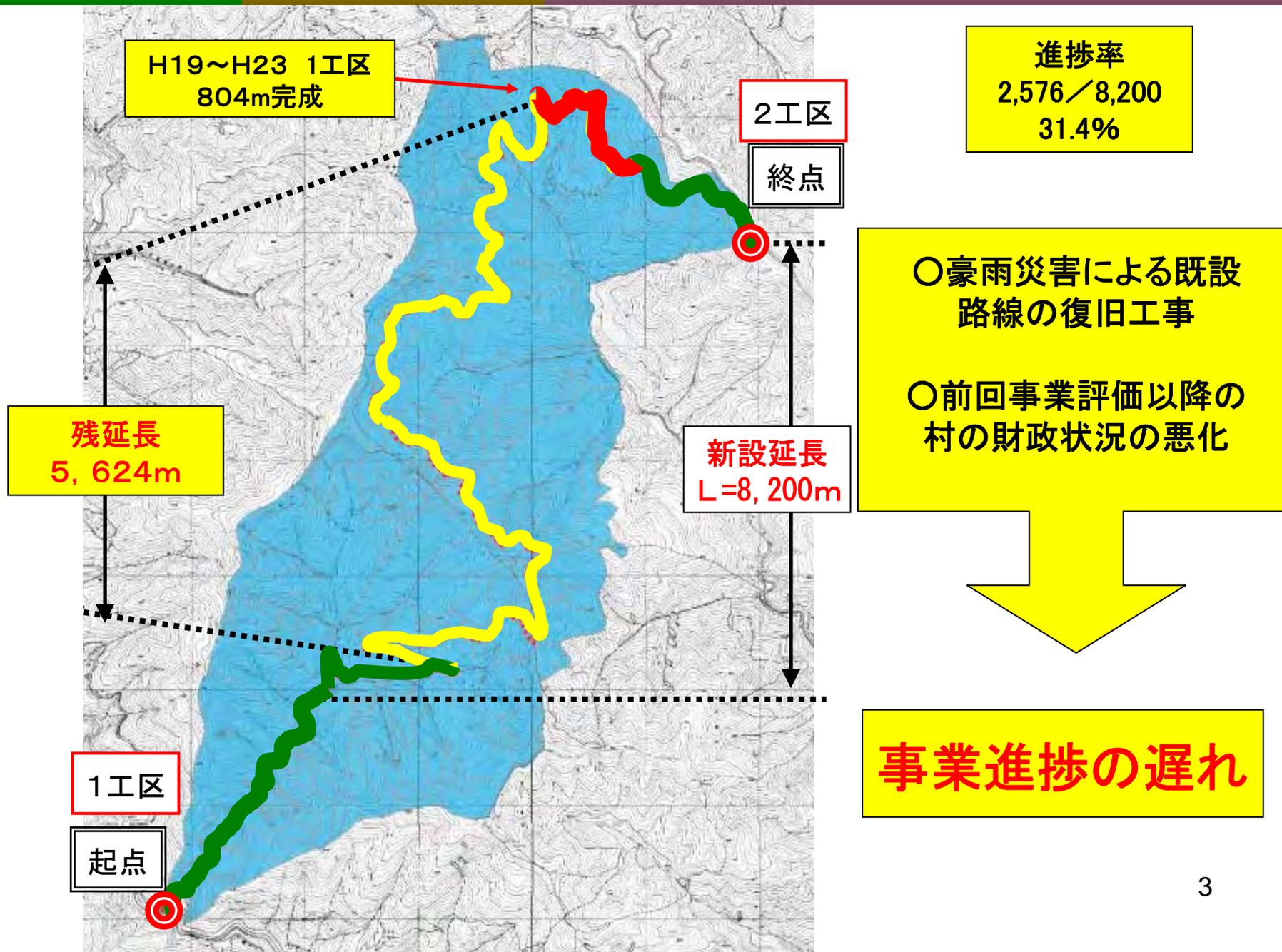
② 前回事業評価時の計画 (H18)



1. 路線の現況

(1) 全体計画

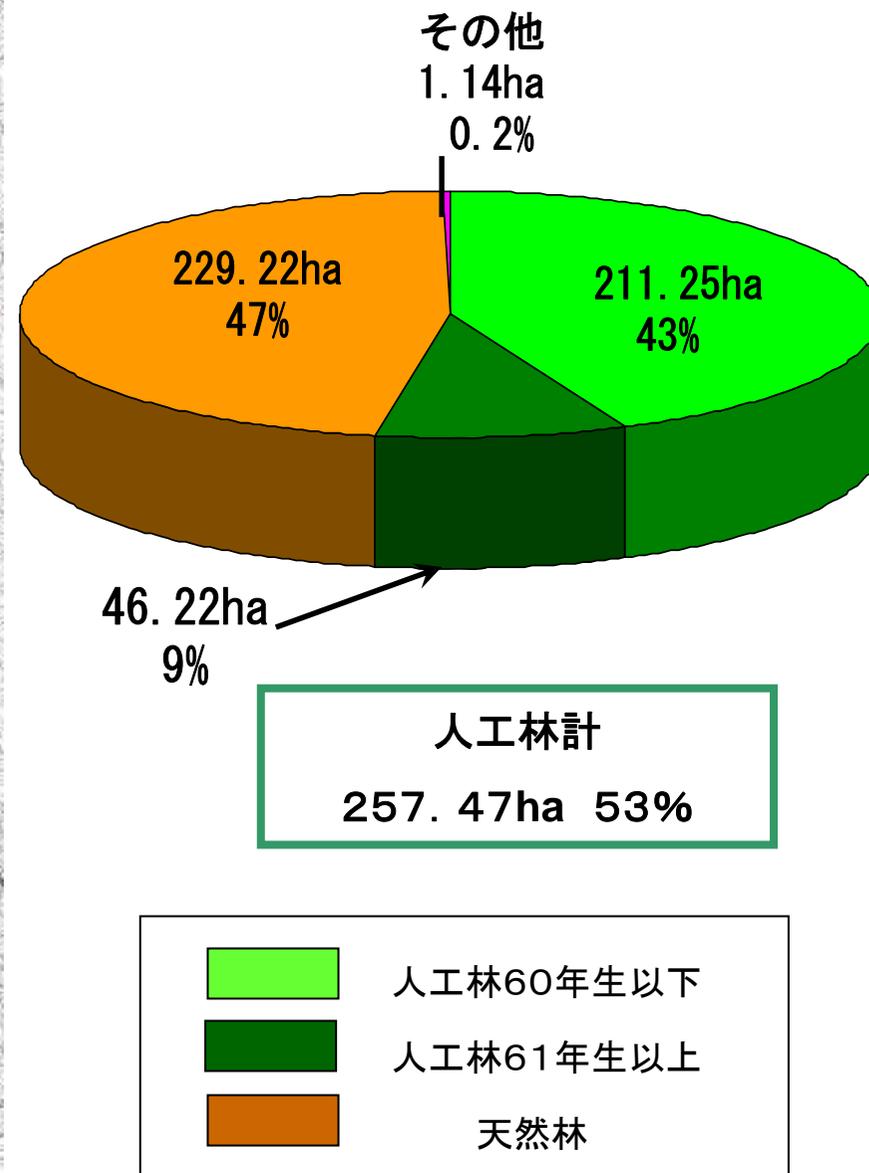
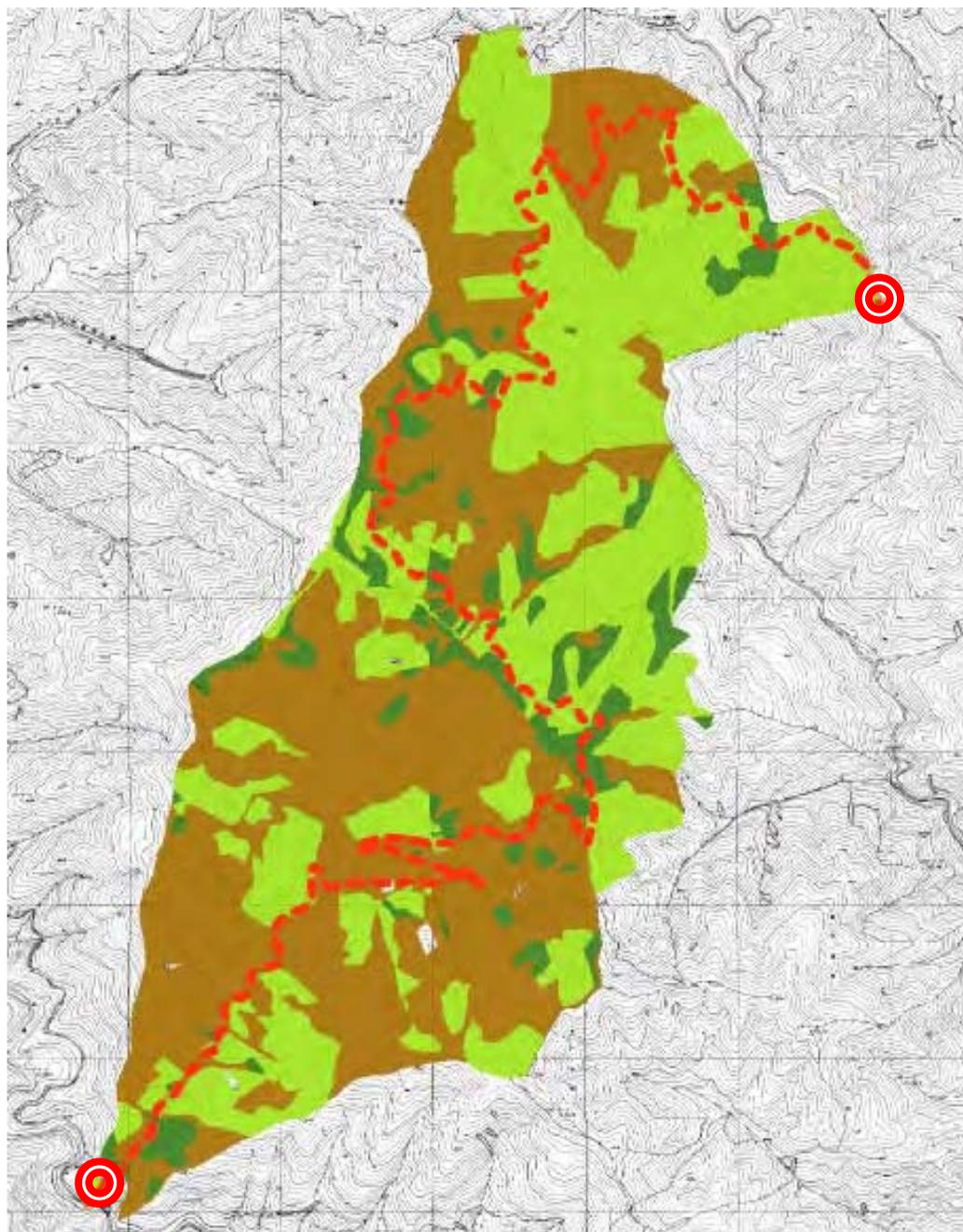
③事業進捗状況(H19~H23)



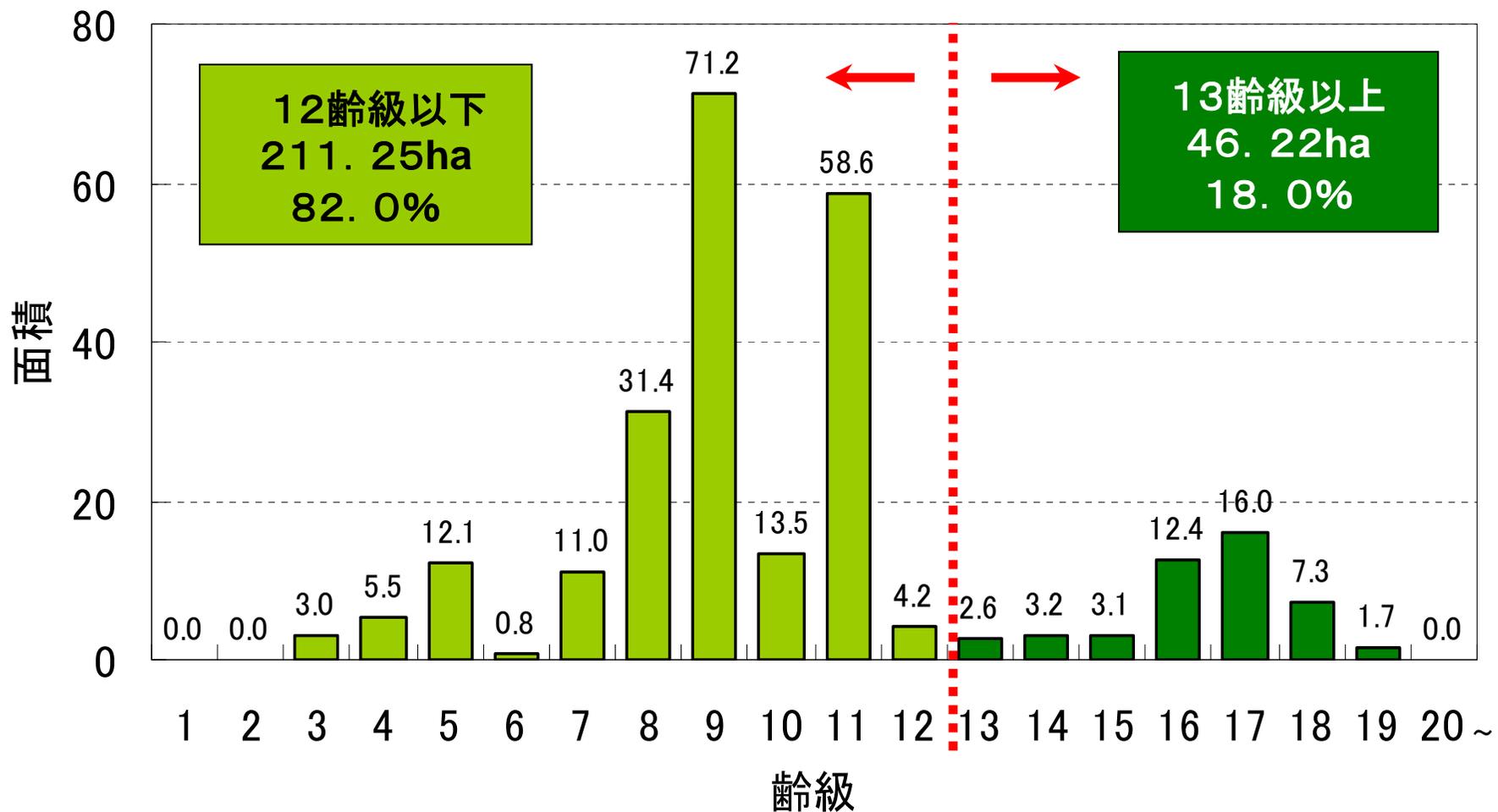
1. 路線の現況

(2) 森林資源の概要

① 森林資源の内訳



ホラ谷立里線 人工林 齢級別面積



12 齢級 (60 年生) 以下は間伐等の密度管理が必要

2. 事業効果



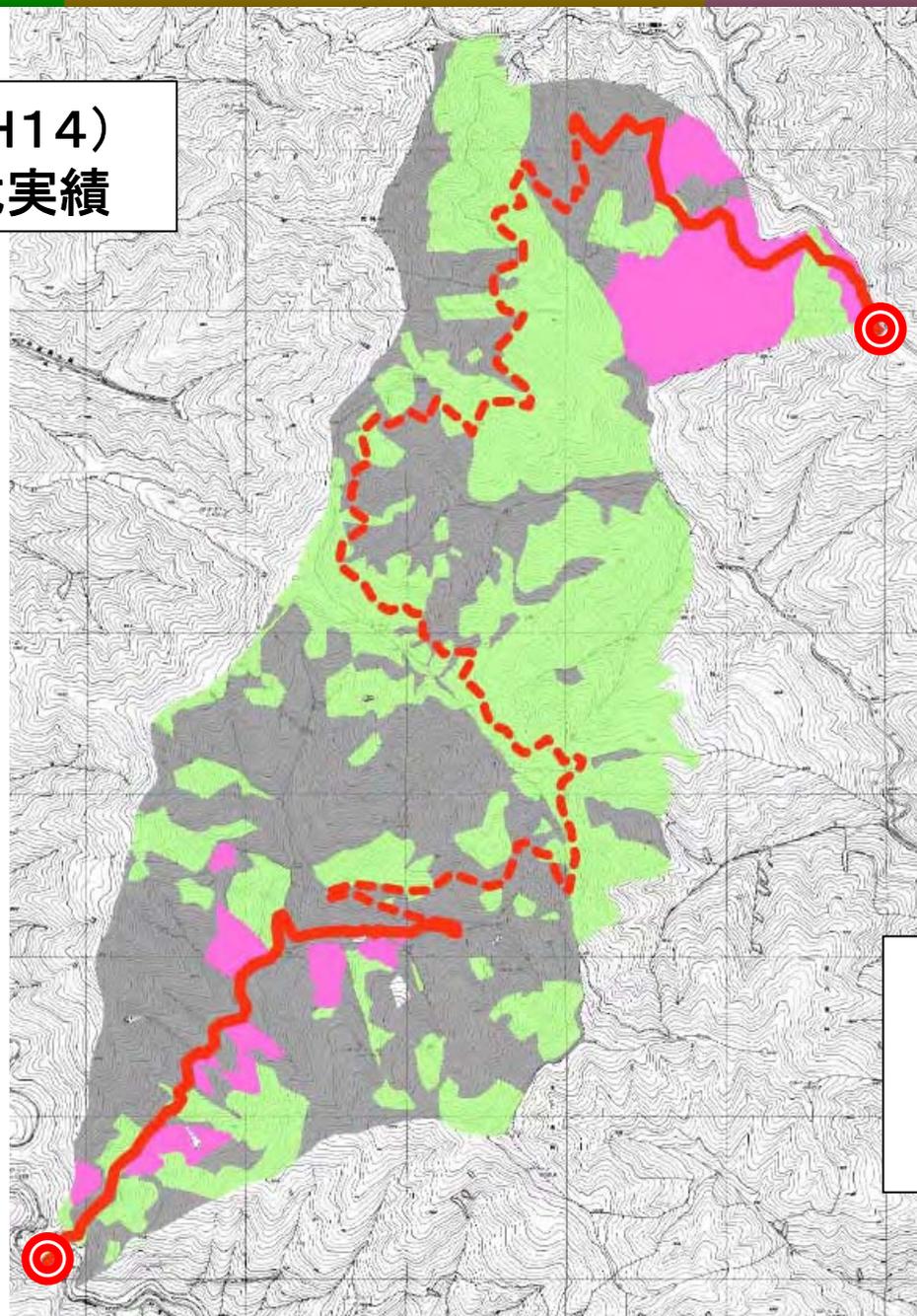
- (1) 林業施業の推進
- (2) 費用対効果について

2. 事業効果

(1) 林業施業の推進

① 間伐実績 (H14以降)

事業開始 (H14)
以降の間伐実績

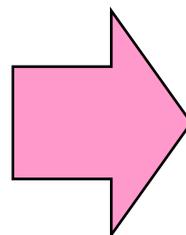


整備済道路の周辺で
着実に間伐が
実施されている

- | | |
|---|-----------|
|  | 天然林 |
|  | 間伐実施予定人工林 |
|  | 間伐実施済人工林 |



間伐前の山林



間伐後の山林

○総費用：2,210百万円

○総便益：2,391百万円

総便益額のうち、主な効果

木材生産便益
192百万円

森林整備経費
縮減等便益
1,437百万円

一般交通便益
144百万円

災害等軽減便益
618百万円

**費用対効果
(B/C) = 1.08**

**【参考】
前回評価時(H18)
B/C=1.33**

※費用対効果について林野庁の定める「林野公共事業における事前評価マニュアル」を適用

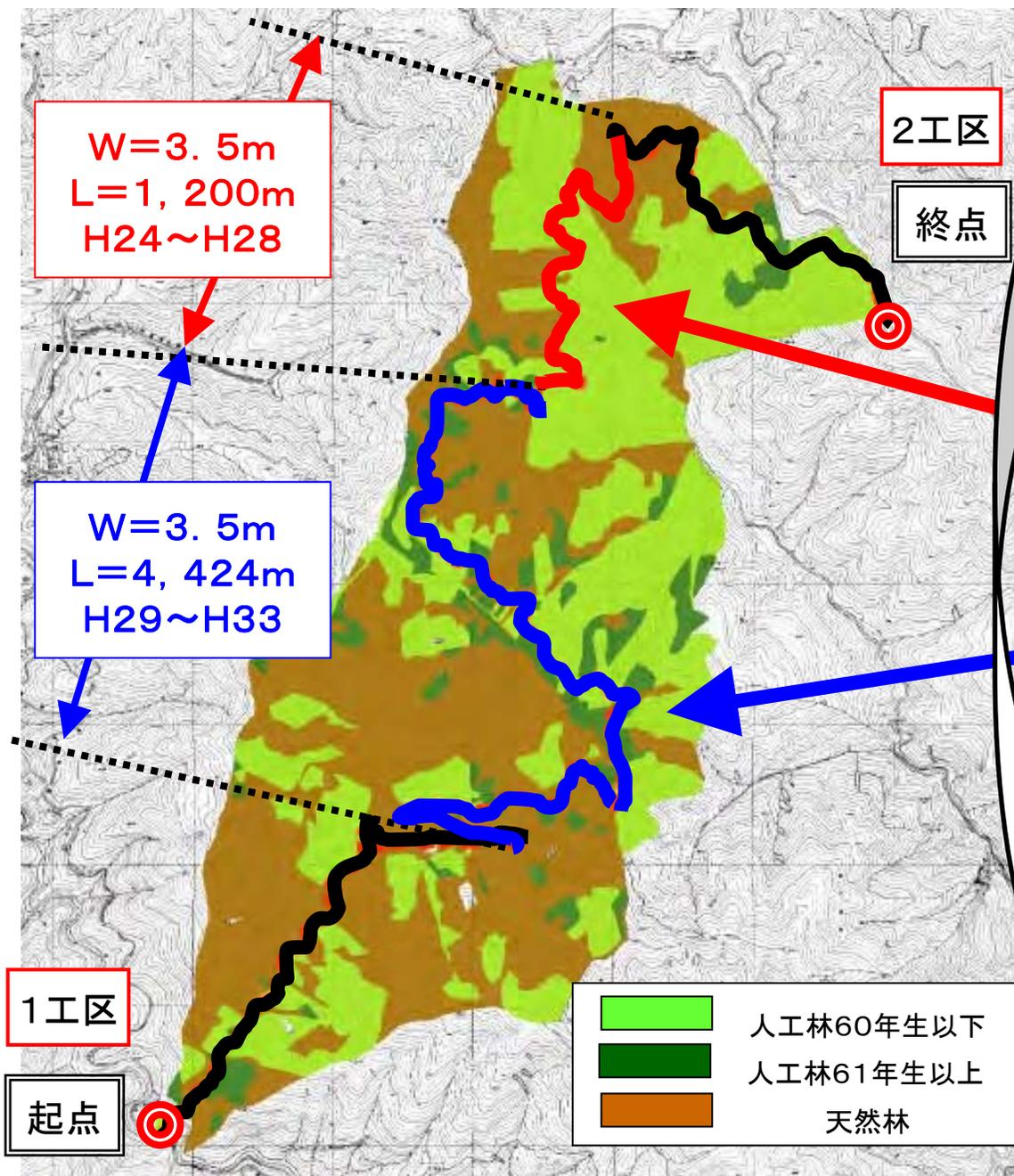
3. 今後の方針



- (1) 全体計画の見直し
- (2) コスト縮減
- (3) 紀伊半島大水害からの復旧・復興

3. 今後の方針

(1) 全体計画の見直し



前回計画

事業期間 H14~H28

開設延長 8,200m

全体事業費 3,037,000千円

当初計画最終年度(H28)までに
人工林の多い地域に
幅員3.5mの道路を整備

大部分が尾根部のため、既設路
線と比べ、開設単価の縮減及び
施工効率の向上が期待できる
H33の全線開通を目指す

計画見直し

事業期間 H14~**H33**

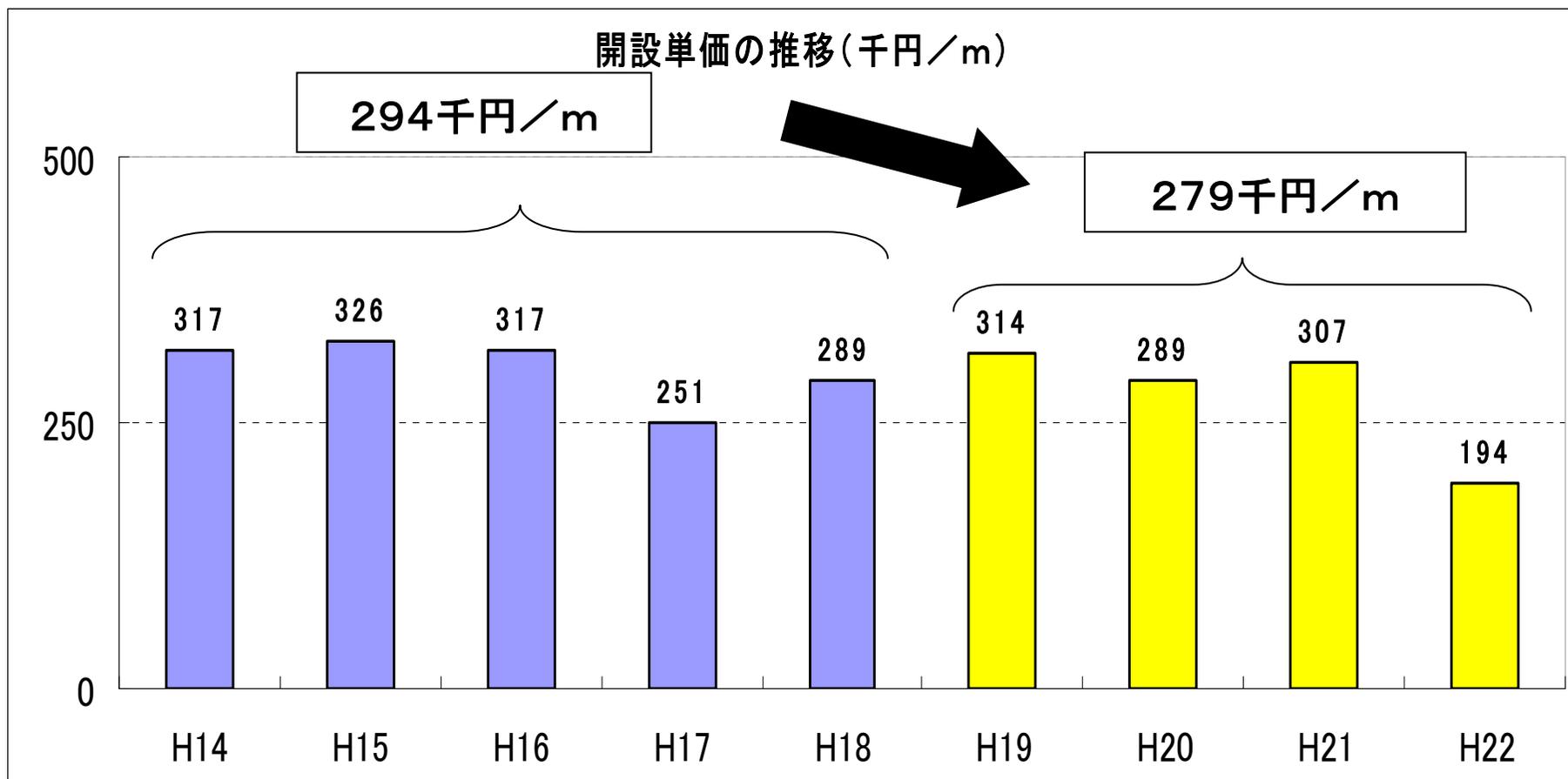
開設延長 8,200m

全体事業費 **2,120,530千円**

3. 今後の方針

(2)コスト縮減の取組

- 平成19年度から幅員を4.0mから3.5mに縮小 → **引き続き実施**



- 平成29年度以降の事業区間は尾根部のため、開設単価の縮減が可能

- 効率的な線形の採用、構造物の経済比較の徹底 → **引き続き実施**

3. 今後の方針

(3) 紀伊半島大水害からの復旧・復興！

紀伊半島大水害による
村内の林道被災状況

被災路線数 15路線

被災箇所数 33箇所

被災延長 1,787m

被害金額 305,231千円

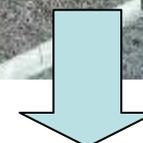
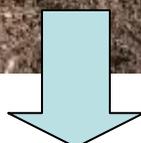


3. 今後の方針

(3) 紀伊半島大水害からの復旧・復興！



当林道の既設路線も大きな被害を受けましたが村の基幹的な林道として開設事業中であり、災害復旧工事を実施し、事業の進捗を図っています。



3. 今後の方針

(3) 紀伊半島大水害からの復旧・復興！

野迫川村では「安全・安心で、夢が語れる、夢が持てる村づくり」をスローガンとし、昨年の紀伊半島大水害からの復旧・復興に全力で取り組んでいます。



林道ホラ谷立里線の事業実施区域は今後も施業可能な人工林が多く存在するため、重要産業である林業の振興に大きく貢献します。



林業の振興による本村の復旧復興へと繋がることから、地元住民や関係者は早期全線開通を強く願っています。

林道ホラ谷立里線の全線開通に向け、事業を継続してまいります。

